

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077800078		
法人名	有限会社 ほのぼのライフ		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	久留米市城島町江上657番地2		
自己評価作成日	令和1年11月20日	評価結果確定日	令和2年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和1年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

基本理念を基に、ほのぼのの暮らし方々が、笑顔で明るく暮らす事ができるよう、スタッフも明るく元気に入居者様に接することを心掛け「ここに来て良かった」と思って頂けるようなホーム作りを目指しています。
 全員の職員が入居者様の状態を把握することで、ご家族の面会時には近況を御報告し安心して頂くことで、信頼関係に努めている。
 又、地域との繋がりで、認知症の方を支える家族の会「ほのぼの会」を開催し、地域で介護の相談ができる施設を目指して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

H16年6月に開設されたグループホーム「ほのぼの」は、周囲は住宅地や自然に囲まれた2ユニットからなる、認知症デイサービスを併設した事業所である。平屋と2階建ての造りで、整理整頓され明るい雰囲気であり、居心地のよい空間となっている。食事は施設で調理しており、温かく家庭的な食事を楽しむ事ができる。外出や外食支援にも力を入れており、利用者の楽しみとなっている。認知症の方を支える家族の会である「ほのぼの会」を設立、利用者の家族のみならず、地域の方も参加し、悩みの共有や相談ができる大切な場となっている。ヤギの飼育を始めた事で、老若男女問わず来訪者が増加、さらに地域の方との繋がりが深まった。また外部研修にも意欲的に参加し、質の高いケアを提供できるよう努力を続けている。地域を支える介護事業所としての発展が、今後も大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの基本理念は数年前、職員の思いを基に作りあげた。ミーティングの際には職員全員にて唱和を行い、意識の統一を図っているが、今後は理念の一つ一つを目標に掲げ、職員が理念を身近に感じ、意味のある理念となるよう取り組みたいと思っている。	3年ほど前に理念に対する外部研修に参加し、職員が目標にしたい言葉を繋げて、より職員の思いが反映された理念に作り直している。理念は各ユニットと玄関に掲示しており、月1回のミーティングで唱和を行っている。理念に基づき「笑顔を忘れていよ」と、職員を指導する際にも、具体化して意識的に取り組む事ができている。	年1回評価シートにて個人目標を立てているが、目標に対して振り返る機会がないとの事で、年2回の面談時などに振り返る機会を設けてみてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の集まりの際に、健康体操を行っている。又、ホームの行事の際には、お声掛けし参加して頂くことで、ホームを身近に感じて頂けるよう努めている。自治会へ加入したことにより、資源ごみ回収の日に顔を出すことで、役員さんだけではなく、他の地域の方にも声を掛けて頂くようになった。	秋祭り(敬老会)には、利用者家族だけではなく老人会長や老人会の方の参加もある。地域密着型施設の集まりにも参加し、城島地区の出前講座にも協力している。中学校の職場体験や、高校の地元企業CMを作成するという企画も毎年受け入れている。校区の祭りにも誘いを受け、職員がゲームなどを出店した事もある。庭にヤギを飼い始めてから、近所の方が餌やりに来るなど、様々な年代の方が訪れ、利用者とは触れ合うよい機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回程、認知症の方を支える家族の会「ほのぼの会」を開催し、地域の方が介護の相談をできるような場所を目指して取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際には、地域の方・ご家族の他に、昨年より「NOP法人 認知症家族を支える会 ニコニコ会」代表の参加により相談や助言を頂き、サービス向上を目指している。	運営推進会議には、区長・老人会会長・民生委員・包括職員・家族代表・NPO法人ニコニコ会代表などが出席している。近隣の地域密着型施設の運営推進会議に相互参加した事もある。欠席者には議事録を郵送したり、外部評価後は内容の報告なども行っている。ヒヤリハットなども議論し、予防に繋がるような対策を検討し実行している。また運営推進会議後に、参加者とゆっくりと話をする機会もあり、意見交換ができる有意義な場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前は、運推進会議に参加して頂いていたので、その際に相談などを行っていたが、最近市役所の参加が無く、主に電話での相談となっている。	市主催の研修の案内があり、職員が参加している。市役所に、加算についてや空き部屋をショートステイとして利用できるかどうかなど、何かあれば電話で相談をしている。包括センターより、認知症家族会の「ほのぼの会」の立ち上げの要望を受け、包括センターと密に連絡をしながら立ち上げた事により、様々な事で協力できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束・虐待に関する研修を行っている。又、指定基準対象以外の行為でも、「これは身体拘束に当たらないか」ミーティングの際に話し合うようにしている。施錠に関しては、常日頃より、玄関・窓は施錠せず開放している。夜間のみ防犯の観点から施錠を行っている。	身体拘束・虐待に対する外部研修にも積極的に参加しており、その都度内部伝達講習や資料閲覧を実施している。現在床のセンサーマットを3名使用しているが、拘束にあたるかどうか、職員で研修し考えるなど、自分たちが行っているケアを振り返る場を設け、身体拘束しないケアに職員全体で取り組んでいる。	

2019.12自己・外部評価表(GHIほのぼの)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の身体拘束・虐待に関する研修を行っている。又昨年度は、1か月に1回のペースで虐待の目チェックを各職員へ行い、日頃からの支援を見つめ直す機会を設けていた。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年ではないが、定期的に研修を施設内研修にて、全職員が学ぶ機会を設けている。又外部にて研修が開催される際は、参加するようにしている。	現在制度の利用者はいない。制度について分からない事があれば、市役所や包括センターに相談しようと考えている。過去に家族から制度について相談された事もあった。	パンフレットを常備したり、他施設においてはどんな手順で進めたりどういった機関に相談しているかなど情報を収集し、家族などから相談を受けた際に、円滑に進められるような体制作りに取り組みれてみてはどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長期の入院で退居となる際は、ご家族と小まめに連絡をとり、Drの説明・状態報告・ご家族の入院に対しての不安などを聞くよう心掛けている。又改定の際は文章作成し、説明を直接行い理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料を現金での徴収するシステムをとっている為その際に、ご家族からの不安なことや要望を聞き取ることができている。又、運営推進会議にて、ご家族の意見などを聞き、外部の方から助言を頂くこともある。	料金の支払いは窓口持参にしており、別室にて家族も気兼ねなく話す事ができるような機会がある。年2回「ほのぼの会」を開催し、職員や家族同士で思いを共有したり、相談できる場となっている。家族より、気候の心配があり秋祭りは室内で行ってみてはという意見があった為、実際に室内で行うなど、家族の意見が反映させれるよう努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談を行い、職員の仕事に対する悩みや意見を聞き取る機会を設けている。その際に聞き取った改善点などは、全体ミーティングにて議題に挙げ、話し合うよう努めている。	月1回の合同ミーティングには休みの職員も参加し、活発な意見交換ができている。ミーティングがスムーズに進行するように、事前に職員のアンケートを取ってみてはどうかと職員が提案を行い、今後取り組もうという事になっており、職員の意見を反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の方の、労働時間の短縮、病気に対する休み・早退に対応できるよう努めている。又、研修など時間内で参加できるよう努めている。処遇改善交付金を用いて、スキルアップを図っている職員に対しては賞与アップなどにて向上心を持てるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集の際には、年齢・性別などの理由で採用対象から外すことはない。利用者様・ご家族を大切に思う気持ちを重視している。又、現場の職員の配置も、個人個人の能力・体力等を踏まえ、ユニット配置の転換・勤務形態などに努めている。	男女比は1:3で、10代から60代まで、幅広い年齢層の職員が勤務している。以前は、1回にまとめて休憩をとっていたが、現在は職員のストレス軽減を図るため、3回に分けて休憩を取りたいとの意見を踏まえ実施している。昼休みの過ごし方は自由で、時間内に外出する職員もいる。計画を立てるのが好きな職員は、行事の計画を立てるなど、職員の能力を活かす事ができている。資格取得や研修への参加に対しても協力的で、希望を伝えやすい雰囲気がある。	

2019.12自己・外部評価表(GHIほのぼの)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	昨年度実施した虐待の芽チェックした項目に対して、日頃行っている行為が人権侵害に該当しないかを検討する機会を設け、全職員で検討した。	実務者研修や外部研修に参加した時の資料を、職員が閲覧できるようにしている。市から送付された人権週間のポスターなどは、施設内に掲示している。	外部機関(社協や包括・人権団体など)から学習資料やDVDを借りるなど、更なる人権教育・啓発活動に取り組んでみてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を定期定期に行うことで全職員が学ぶ機会を持つと共に、外部の研修に参加する際は、時間内で研修へ参加できるよう配慮している。又、スキルアップを図っている職員に対しては、処遇改善交付金を活用し意欲が持てる様努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市のグループホーム部会が開催する研修には参加し、近隣のグループホームの方と情報を共有する機会を作るよう努めている。他のホームの運営推進会議に参加することができた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行うことで、ご本人様・ご家族の意見や不安なことを聞き取り安心して入居できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行うことで、ご本人様・ご家族の意見や不安なことを聞き取り安心して入居できるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族共に、新しい環境に馴染めるか不安で入居されることが多い。初期段階の対応として、職員との関係性作りを重視し、安心して暮らして頂くなかで、ご本人様・ご家族が求める支援を提供できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が持っている能力を生かして頂くことで、生活に張り合いと自信が持てる様努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1度の支払い時に、面会できるよう努めている。面会して頂くことで、ご本人様の近況の状態を共有できる様努めている。又、年間行事にて、ご家族をお招きし、入居者様のホームでの生活の様子を見て頂く機会をつくっている。		

2019.12自己・外部評価表(GHIほのぼの)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時より、信頼されている主治医の往診をお願いしている。又、入居者様の親戚の方・ご友人の面会時には、ゆっくと過ごせる環境作りに努めている。	なじみの人や場所などを、入所時や日頃の会話の中から聞き取り、把握できるように努めている。計算・漢字が好きな人は計算や書き取りをしたり、歌が好きな人の為に昼間は音楽を流したり、観葉植物が好きな人は自室で育てている人もいる。地域の神社に初詣をしたり、外出時にはなじみのルートを通っている。友人から年賀状が毎年届く人もおり、継続的な交流ができるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有する場所では、席の配置・順番に配慮している。又、他者と関わるのが困難な方に関しては職員が関わり、孤立しないように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方には、お見舞いに行くことを心掛けている。又、ご家族の方から近況をご連絡頂く事もある。年賀状を送る際には、サービス終了された方も送るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取る事が可能な方は聞き取るが、困難な方に対しては、ご家族の要望と日常の様子をくみ取るよう努力している。	独自のアセスメント表を使用し、入居時に社長や計画作成担当者などが聞き取りを行う。入居後の様子や個人記録、生活スタイルを知っていく中で、さらに気付いた事を追記している。またケアプラン更新時には作成し直している。日頃から、一人一人の思いや意向について、把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りにて、ご本人又はご家族より聞き取る。又入居後も会話等で聞き取るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過にて、一日の経過を記録し、当日出勤でない職員でも、状況が把握できるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には、主に家族参加となっている。ご家族も多忙な方が多い為、ご家族が面会可能な時間に対応できるよう配慮している。主治医の参加が困難なのが現状である為、事前に受診時に意見を頂くよう心掛けている。	短期計画は半年、長期計画は1年で、計画作成担当者が計画している。入居後や退院後は期間を短く設定し、現状に即した見直しを行っている。主治医の意見も反映させるなど、専門家とも協力できている。月1回モニタリングは担当職員が記入している。介護記録にケアプランのチェックを毎日行っており、介護記録とケアプランの連動性もみられている。	

2019.12自己・外部評価表(GHIほのぼの)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人経過と連動することで、職員間で情報を共有することができ、実践し気づきができるよう努めている。又、担当者にてモニタリングを行うことで、意識を高めるよう努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時に、ご家族が付き添えない場合はホームで対応し報告を行っている。買い物要望がある際は、買い物支援も行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	久留米市のボランティアへ登録はしているが、活用することができていない。今年より、ヤギを飼育するようになり、近所の方々がホームに足を運ばれる事が多くなり、入居者様とのふれあう機会は増えた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の主治医を希望される方は、希望に添えるように柔軟な対応を取っている。又、受診困難な方に関しては、往診をお願いしている。今後、重度化し受診不可能な方に関しては訪問診療を検討している。	入居時に受診希望の病院を聞き取り、本人・家族の意向に沿うようにしている。受診は職員が支援する事が多いが、今後は4月から勤務開始となった看護職員が、支援を行うようにしたいと考えている。また、皮膚科専門医の訪問診療を受ける事ができる。受診内容は個人経過記録や申し送りノートに記入し、情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各病院の看護師・ソーシャルワーカーと信頼関係を築き、受診の際には、相談できるような関係をつくっている。又、ホームに看護師が在籍するようになり、看護師の助言にて健康状態を把握できるようになってきた。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、ご家族や病院のソーシャルワーカーと連絡をこまめにとり、ご本人様の状態や入院経過を聞くように努めている。又、面会に行き、ご本人様の様子を伺うよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化傾向にある方については、ご家族にホームでできる事を伝え、それを踏まえての意向を聞き取るようにしている。又主治医と連携し、受診困難になった時の往診の有無の確認、ご家族への訪問診療の説明などを行っている。	現在看取りは行っておらず、重度化した方は病院に入院する体制となっている。入院が必要な時期になったら、家族と密に連絡を取り合い、家族の希望の病院に入院できるよう、支援を行っている。本人や家族に意向を踏まえ、安心して納得できる対応ができるよう努めている。	今後万が一体調が急変される事態もあり、職員が安心して対応できるよう、急変時の体制や対処方法について研修を実施するなど、職員全体の理解が深まるような取り組みをしてみてもいいだろうか。

2019.12自己・外部評価表(GHIほのぼの)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急に参加するようにしている。しかし、主に日曜日に開催されており、参加出来ない職員もいるのも現状である。今後、ホーム内で開催することを検討中である。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に関しては、年2回実施している。水害訓練は、今年度12月に行う予定である。地域のコミュニティーセンターを避難場所として協力体制をお願いしている。	年2回の避難訓練のうち、1回は消防職員の参加がある。通報時の仕方や逃げる方向は方位で説明する等、具体的な指導を受けている。施設で調理ができない時は、近隣に元ホーム長の自宅があり、ガスを借り調理した事もあった。今後もガスを使用できるような協力体制にある。ラーメン・スープ・水など2・3日分の備蓄品があるが、台風前には事前にさらに食料の準備を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に言葉かけの指導をこまめに行うことで、意識が持てるよう努めている。時折、個別指導行うときもある。	写真の利用に関しては、入居時に家族からの同意を取っている。言葉遣いに対しては、月1回のミーティングにて全体的に指導を行ったり、適宜個別に指導する事もある。温かみのある口調で、語尾は極力上げるようにするなど、細かい点にも配慮しながら接するよう、常に心掛けている。誕生会は月ごとではなく、基本的にはお誕生日当日に1人だけお祝いしており、とても喜ばれている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	午前中の水分補給時は、それぞれ飲みたい物を聞き提供を行っている。入浴時は、希望の時間帯や曜日を決められる方も居られる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でご本人様が、その気分では無い時は、時間をずらしたりし対応する。それでもご本人様が気分が載らない時は、無理せずご本人様の意向を尊重するよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある美容室へ出かられる方や髪染め・顔剃りを希望されるかも居られる。ご本人様の要望に添えられるよう努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の茶碗拭きをお手伝いして頂くことはある。食事作りを身近で感じて頂き、食事作りについての会話ができるような環境ができるよう努めている。	献立の作成と材料の配達は外部の業者が行っているが、調理や味付けは職員が行う。調理担当の職員が1名いるが、休みの日は別の職員が調理している。オープンキッチンにて調理しており、利用者からも見えやすく、出来上がりが楽しみとなっている。状況に応じて、様々な固さや形態にも対応している。秋祭りやクリスマスの行事には、ホットケーキ・クレープ・サンドイッチなどを利用者と一緒に作り、楽しい食事となるように取り組んでいる。	

2019.12自己・外部評価表(GHIほのぼの)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、個人個人記録し把握できるよう努めている。又、食事量が入らない方に関しては、栄養剤にて補給したり、水分に関しては、トロミ剤を使用したり、味を変えるなどの工夫し摂取量を確保できるよう努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアに取り組んでいる。ブラッシング困難な方は、スポンジを利用している。訪問歯科を利用し定期的に口腔内のケアを実施されている方もおられる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄チェックシートを用いて、排泄の感覚を把握し誘導を行っている。排泄の失敗が少ない方に関しては、布パンツで過ごして頂くよう努めている。	排泄チェックシートをもとに、誘導時間を検討し、状況に応じて時間を変更する事もある。排泄状況からケアの方法を変更する時は、申し送りにて報告し、職員全体で情報を共有している。習慣やパターンに応じた、個別の排泄支援ができるよう努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージを行ったり日常生活の中で動く機会を持てるよう努め、排便の促しを行っている。又、夏場は水分量を多く摂取して頂くよう心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は設定しているが、その曜日や時間帯は、ご本人様の意向で入浴できるよう努めている。又、拒否が見受けられる方に関しては強要はせず、ご本人様が入浴をしたい気分になれるような雰囲気をつくるよう努力している。	入浴は主に、月・火曜日、木・金曜日に設定し、週2回は入浴できるようにしている。ユニットは関係なく、本人の希望を聞きながら、午前・午後とも3・4人ずつ入浴を行う。希望があれば好きなシャンプーなどの使用も可能であり、入浴順番も配慮している。入浴時には皮膚状態を観察し、必要時には医師に相談をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は、一人ひとりに合わせた休息時間を取り入れたり、ご本人様の要望で休息されてりしている。又、夜間眠りが浅い方に関しては、リビングで過ごして頂くなどの個別対応し安心感をもてるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、薬の処方箋を綴じ、いつでも閲覧できるようにしている。又、薬の変更や頓服の際は、個人経過の方に、Dr.からの指示や内服要領などを記載し全職員が把握できるよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的に買い物に出かけられる方も居られる。又、好んだお菓子などを差し入れて頂き食べてる方も居られる。行事の際にはアルコールを希望される方には提供している。		

2019.12自己・外部評価表(GHIほのぼの)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある際は、希望に添えられるよう支援している。又、外出行事にて希望の場所に行ったり、懐かしい場所に行けるよう工夫している。	施設全体の外出では6人ずつに分かれ、異なる3日間の日程を組み、食事やパン屋への外出を行っている。利用者からは「また計画してください」との声もあり、外出が楽しみとなっている。また2・3人ずつでコスモスや菖蒲などの花見に出かけたり、家族の支援にて自宅に外泊する人もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方に関しては、自由に持って頂く事は可能であるが、ご本人様の認知度などを考慮し、御家族と話し合い検討することもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望がある際は、自由に電話することは可能である。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の臭いに関しては、気を遣ってる。面会に来られての方々が、施設独特の臭いが無いことで、居心地の良い環境で面会して頂けるよう努めている。又、季節の花を飾ったり、壁飾りにて季節感ができるように工夫している。	共有スペースは明るい雰囲気、全体的に整理・整頓されており、生活感がある。歩行訓練を兼ねて、他ユニットの洗面台を使用している。また浴室も広く、十分な洗い場やゆっくりと浸かれる浴槽があり、気持ちよく入浴を楽しめる環境がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間を行き来出来るようにし、より多くの職員や入居者様と関わられるようにしていることで、孤立することを防ぐ工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、自宅で使用されていた馴染みの物を持ち込まれても良いことをお伝えするよう心掛けている。家族写真・家具・食器など、それぞれではあるが、持ち込まれている。	居室はベッドだけではなく、希望に応じて布団を使用している人もいる。観葉植物を置き、好きなコーヒーカップや皿を飾ったり、鳩時計・CDラジカセなどを持ち込み、自宅のような雰囲気がある。窓からの見晴らしもよく、居心地よく過ごせる空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室は、その方の能力に合わせて動線を確認し又共有スペースについても、入居者様の動線上には物を置かないよう心掛けることにより、安全に動けることで自立した生活が送れるよう努めている。		